

平成28年度「北海道大学総長賞」表彰式を挙行 北海道大学一般入試の志願状況

お知らせ

・過半数代表候補者の決定



1 情報セキュリティの向上に向けて

■ 全学ニュース

- 2 平成28年度「北海道大学総長賞」表彰式を挙
- 5 北海道大学一般入試の志願状況
- 6 AO入試合格者の発表
- 7 北大フロンティア基金
- 8 新渡戸フェローゼミ全体発表会を開催
- 9 ミャンマーと米国の北海道大学アンバサダーを委嘱
- 9 小学生と外国人留学生の歩くスキー実習を実施
- 10 研究者のためのスキルアップセミナー⑨「Sの法則：プレゼンのためのデザイン入門」を開催

■ 部局ニュース

- 11 北海道大学病院で陽子線治療に関するIAEA技術協力研修を開催
- 12 経済学部で北海道財務局理財部長の特別講演会を開催
- 13 農学研究院で平成28年度第3回FD研修会を開催
- 13 農学院・農学研究院・農学部において「留学生新年会」を開催
- 14 工学系部局で「第2回こころのケアに関する講習会」を開催



ミャンマーと米国の北海道大学アンバサダー委嘱



研究者のためのスキルアップセミナー⑨「Sの法則：プレゼンのためのデザイン入門」

■ お知らせ

- 15 過半数代表候補者の決定

■ 同窓会との交流

- 16 恵迪寮同窓会「新年寮唱歌始めの会」

■ 諸会議の開催状況 17

■ 学内規程 18

■ 表敬訪問 18

■ 人事 18

- 19 新任部局長等紹介
- 19 新任教授紹介

■ 訃報

- 20 准教授 福嶋 正巳 氏
- 20 名誉教授 篠原 邦夫 氏



新渡戸フェローゼミ全体発表会



北海道大学病院
陽子線治療に関するIAEA技術協力研修



農学院・農学研究院・農学部
留学生新年会



恵迪寮同窓会
新年寮唱歌始めの会

情報セキュリティの向上に向けて

理事 菅野 政利



教職員の皆様には、日頃より、情報環境の整備推進、情報セキュリティの維持向上にご協力いただき、感謝申し上げます。

さて、情報システムやネットワークは、世界中の人やモノと繋がり、非常に便利で、かつ研究・教育に不可欠なインフラとなっていますし、今後ますますその繋がりは深化していきます。一方で、使い方を誤ったり、悪用されるなど、インシデントが起きた場合の影響は深刻になりつつあります。

情報セキュリティ対策には、技術的に対応できる部分と技術ではカバーできない、利用者一人ひとりの意識や普段からの行動に負う部分があります。

情報セキュリティ対策は道半ばです

昨年1月の情報セキュリティインシデントを受け、学外からの通信制限・許可制導入やネットワークの感染監視強化など技術的な対策を実施する一方、情報セキュリティ及び個人情報保護に関する階層別セミナー、全教職員を対象としたe-Learning研修、標的型メール攻撃訓練など、利用者のセキュリティ意識向上に向けての啓発活動を実施して参りました。

その後もインシデントは少なからず発生していますが、技術的な対策強化により、重大なインシデントには至っていませんでした。

しかしながら、昨年12月、個人情報を含むパソコンの紛失という、利用者個人の意識・行動に起因するインシデントが発生しており、情報セキュリティ及び個人情報保護に関する全構成員への意識の徹底はまだ道半ばといった状況です。

情報セキュリティインシデントの傾向は？

皆さんも日本年金機構（2015年6月）、JTB（2016年6月）、富山大学（2016年10月）のインシデントは記憶に新

しいと思いますが、いずれも標的型メール攻撃によりウイルスに感染したことに起因する情報流出事案です。最近の標的型メールは、見分けるのが難しいほど、ますます巧妙になってきています。

また、他大学等でも個人情報を含むパソコンやUSBメモリの盗難・紛失、メール誤送信など機器の誤操作等による情報流出事案も後を絶ちません。

さらに、IDやパスワードの脆弱性を利用した不正アクセスも相変わらず多発しています。

情報セキュリティの最後の砦はあなたです

情報セキュリティインシデントは、システムの技術的な対策だけでは防げません。

不審なメールは開けない、個人情報は安易にパソコンに保存しない、記録した媒体は持ち出さない、安易なパスワードは使わない、パスワードの使い回しはしない、といった利用者一人ひとりの普段からの意識と行動が不可欠です。

一人の不注意やルール違反によりインシデントが起きてしまうと、損害賠償といった実損に加え、組織全体の社会的信用を失うことになり、それを回復するには多大な労力とコストが発生しますし、性悪説に立ったルールの強化をせざるを得なくなり、善良な多数の利用者の利便に支障をきたしかねません。

情報環境推進本部では、今後も情報セキュリティに関する研修や訓練を実施して参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

情報セキュリティの最後の砦は、あなたです。情報セキュリティインシデントを他人事と思わず、情報セキュリティを守るのは自分自身であるということを忘れずに行動していただくことを期待しています。

■全学ニュース

平成28年度「北海道大学総長賞」表彰式を挙



山口総長から表彰状の授与

1月31日（火）、学術交流会館講堂において「教育総長賞」「研究総長賞」「教育研究支援業務総長賞」表彰式を執り行い、関係者列席のもと、山口佳三総長から被表彰者に、賞状及び報奨金（目録）が授与されました。

教育総長賞・研究総長賞は、教育活動及び研究活動を通し優れた功績をあげた教員を、また、教育研究支援業務総長賞は、業務改善等の取り組みを通し優れた功績をあげた職員を顕彰することにより、本学の活性化と更なる発

展に資することを目的としたものです。
 なお、このたび表彰を受けられた方々は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課厚生労務室）

◆教育総長賞 優秀賞

所	属	氏名
文学研究科		HOMMERICH CAROLA
経済学研究科		高井 哲彦
歯学研究科		安田 元昭
理学研究院		鈴木 久男

所	属	氏名
理学研究院		坂口 和靖
〃		小田 研
メディア・コミュニケーション研究院		杉浦 秀一
高等教育推進機構		池田 文人

奨励賞

所	属	氏名
文学研究科		宮内 泰介
〃		今井 順
〃		松江 崇
医学研究科		神谷 温之
〃		川畑 秀伸
〃		今野 幸太郎
歯学研究科		網塚 憲生
〃		八若 保孝
〃		有馬 太郎

所	属	氏名
情報科学研究科		遠藤 俊徳
水産科学研究院		岸村 栄毅
〃		松石 隆
地球環境科学研究院		鈴木 光次
〃		藤井 賢彦
理学研究院		勝 義直
薬学研究科		菅原 満
農学研究科		江澤 辰広
〃		愛甲 哲也

所 属	氏 名
先端生命科学研究院	田 中 良 和
教育学研究院	池 田 恵 子
〃	山 崎 貴 史
メディア・コミュニケーション研究院	奥 聡
〃	飯 田 真 紀
保健科学研究院	山 口 博 之
〃	山 内 太 郎
工学研究院	長谷川 靖 哉
〃	松 本 高 志
〃	佐 藤 敏 文
〃	廣 吉 直 樹
〃	米 澤 徹

所 属	氏 名
工学研究院	岡 部 聡
〃	小 澤 丈 夫
〃	渡 邊 直 子
〃	岸 邦 宏
〃	西 村 聡
〃	坂 入 正 敏
〃	江 丸 貴 紀
北海道大学病院	小 林 正 紀
〃	本 多 昌 平
高等教育推進機構	飯 田 直 弘
〃	山 本 堅 一

◆ 研究総長賞
優秀賞

所 属	氏 名
文学研究科	高 瀬 克 範
理学研究院	見 延 庄 士 郎
工学研究院	伊 藤 肇
公共政策学連携研究部	高 野 伸 栄

所 属	氏 名
北海道大学病院	佐 藤 典 宏
電子科学研究所	長 山 雅 晴
触媒科学研究所	福 岡 淳
観光学高等研究センター	西 山 徳 明

奨励賞

所 属	氏 名
法学研究科	池 田 悠
経済学研究科	柿 沢 佳 秀
医学研究科	大 場 雄 介
〃	野 田 航 介
〃	須 藤 英 毅
〃	絹 川 真 太 郎
獣医学研究科	迫 田 義 博
〃	今 内 覚
情報科学研究科	齊 藤 晋 聖
〃	田 中 孝 之
地球環境科学研究院	三 浦 徹
理学研究院	高 橋 幸 弘
〃	前 田 理
〃	南 篤 志
〃	亀 田 純
〃	小 林 厚 志
薬学研究院	松 永 茂 樹
〃	櫻 井 遊

所 属	氏 名
農学研究院	吉 澤 和 徳
先端生命科学研究院	黒 川 孝 幸
〃	中 島 祐
教育学研究院	石 岡 丈 昇
メディア・コミュニケーション研究院	SEATON PHILIP ANDREW
保健科学研究院	小 笠 原 克 彦
工学研究院	大 沼 正 人
〃	佐 藤 敏 文
〃	長谷川 靖 哉
〃	中 西 貴 之
〃	村 上 尚 史
北海道大学病院	桂 田 武 彦
低温科学研究所	木 村 勇 気
〃	西 岡 純
電子科学研究所	西 野 吉 則
〃	木 村 隆 志
遺伝子病制御研究所	廣 瀬 哲 郎

所 属	氏 名
遺伝子病制御研究所	三 浦 恭 子
触媒科学研究所	清 水 研 一
〃	中 島 清 隆
人獣共通感染症リサーチセンター	高 田 礼 人

所 属	氏 名
観光学高等研究センター	山 村 高 淑
高等教育推進機構	宮 本 淳
安全衛生本部	石 井 哲 也

◆ 教育研究支援業務総長賞（貢献賞）
最優秀賞

事務部門 北海道大学病院事務部

優秀賞

事務部門 国際部国際交流課サマーインスティテュート担当
技術部門 人獣共通感染症リサーチセンター 大沼愛子

医療部門 北海道大学病院検査・輸血部

奨励賞

事務部門 獣医学研究科図書担当 坂本ゆう子
技術部門 低温科学研究所技術部装置開発室

医療部門 北海道大学病院医療技術部 南 昭子

北海道大学一般入試の志願状況

平成29年度の本学一般入試の志願者は、前期日程5,540名、後期日程4,096名、合計9,636名となり、昨年度と比較すると283名減少し、倍率は4.0倍となりました。

入学試験日は、前期日程が2月25日（土）・26日（日）、後期日程が3月12日（日）となっています。

各学部・学科等の志願者数は、次のとおりです。

（学務部入試課）

平成29年度北海道大学一般入試志願者数

日程	学部・学科等	募集人員	志願者数	倍率	第一段階選抜 予告倍率	前年度 志願者数	前年度倍率			
総合入試	文系	100	380	3.8	4.0	372	3.7			
	理系	数学重点選抜群	130	418	3.2	4.0	312	2.4		
		物理重点選抜群	235	614	2.6	4.0	662	2.8		
		化学重点選抜群	235	580	2.5	4.0	686	2.9		
		生物重点選抜群	177	494	2.8	4.0	464	2.6		
		総合科学選抜群	250	702	2.8	4.0	819	3.3		
		計	1,027	2,808	2.7		2,943	2.9		
	前期日程	文学部	118	388	3.3	4.0	325	2.8		
		教育学部	20	68	3.4	4.0	54	2.7		
		法学部	140	319	2.3	4.0	322	2.3		
		経済学部	140	341	2.4	4.0	332	2.4		
		医学部	医学科	97	338	3.5	3.5	378	3.9	
			保健学科	看護学専攻	60	136	2.3	5.0	150	2.5
				放射線技術科学専攻	28	96	3.4	5.0	87	3.1
				検査技術科学専攻	28	87	3.1	5.0	86	3.1
				理学療法学専攻	13	35	2.7	5.0	40	3.1
				作業療法学専攻	13	47	3.6	5.0	61	4.7
小計				142	401	2.8		424	3.0	
計		239	739	3.1		802	3.4			
歯学部		30	102	3.4	6.0	118	3.9			
獣医学部		20	91	4.6	6.0	95	4.8			
水産学部		105	304	2.9	4.0	375	3.6			
合計		1,939	5,540	2.9		5,738	3.0			
後期日程		文学部	37	373	10.1	6.0	315	8.5		
	教育学部	10	103	10.3	10.0	85	8.5			
	法学部	40	408	10.2	6.0	369	9.2			
	経済学部	20	208	10.4	10.0	192	9.6			
	理学部	数学科	13	79	6.1	6.0	93	7.2		
		物理学科	5	88	17.6	6.0	91	18.2		
		化学科	23	132	5.7	6.0	140	6.1		
		生物科学科 生物学専修分野	10	76	7.6	6.0	93	9.3		
		生物科学科 高分子機能学専修分野	5	44	8.8	6.0	71	14.2		
		地球惑星科学科	5	76	15.2	6.0	95	19.0		
		計	61	495	8.1		583	9.6		
	医学部	保健学科	7	66	9.4	6.0	54	7.7		
		放射線技術科学専攻	7	63	9.0	6.0	113	16.1		
		検査技術科学専攻	4	37	9.3	6.0	31	7.8		
	理学療法学専攻	4	37	9.3	6.0	31	7.8			
	計	18	166	9.2		198	11.0			
	歯学部	8	104	13.0	6.0	113	14.1			
	薬学部	24	212	8.8	6.0	231	9.6			
	工学部	応用理工系学科	34	274	8.1		270	7.9		
		情報エレクトロニクス学科	38	277	7.3		322	8.5		
機械知能工学科		30	256	8.5		273	9.1			
環境社会工学科		49	352	7.2		314	6.4			
計		151	1,159	7.7		1,179	7.8			
農学部	53	421	7.9	6.0	419	7.9				
獣医学部	15	109	7.3	6.0	114	7.6				
水産学部	50	338	6.8	6.0	383	7.7				
合計	487	4,096	8.4		4,181	8.6				
総計	2,426	9,636	4.0		9,919	4.1				

AO入試合格者の発表

平成29年度AO入試のうち、大学入試センター試験を課す医学部及び工学部の合格者発表を2月7日（火）に行い、14名が合格しました。

昨年12月6日（火）に合格者発表を行いました理学部、歯学部及び水産学部と合わせ、合格者数は36名となりました。

(学務部入試課)

平成29年度AO入試合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者数	倍率	合格者数	
理学部	物理学科	5	6	1.2	1	
	地球惑星科学科	5	8 (1)	1.6	5	
医学部	医学科	5	6 (2)	1.2	0	
	保健 学科	看護学専攻	7	21 (14)	3.0	7 (3)
		作業療法学専攻	4	5 (4)	1.3	4 (3)
歯学部		5	15 (2)	3.0	4 (1)	
工学部	応用理工系学科 (応用マテリアル工学コース)	4	6 (1)	1.5	3 (1)	
	環境社会工学科 (社会基盤学コース)	4	1	0.3	0	
水産学部		20	35 (4)	1.8	12	
計		59	103 (28)	1.7	36 (8)	

※ () 内の数字は、道内高校出身者で内数

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をする事としています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報
基金累計額（1月31日現在）

19,917件 3,409,100,278円

1月のご寄附状況

法人等2社、個人99名の方々から9,755,100円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

北海道大学東京同窓会

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	浅野 賢二	浅野 武彦	入澤 秀次	岩崎 倫政	岡本 正敏	小内 透	小原 大和
帰山 雅秀	金川 眞行	河井 昌枝	河本 充司	倉上 親治	齋藤 和雄	斉藤 久	佐々木賢一
佐々木貞雄	三升畑元基	清水 智之	神保 重孝	瀬名波栄潤	竹村 勉	丹野千枝美	土家 琢磨
豊嶋 崇徳	寺澤 睦	豊田 威信	春名 敏弘	平口 悦郎	松島 理明	村田 啓	山内 隆嗣
山本起美郎	山本多美子	吉田 広志					

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（個人）

浅野 武彦、岩崎 倫政、倉上 親治、佐々木賢一、豊嶋 崇徳、平口 悦郎、松島 理明、山本起美郎、山本多美子

感謝状の贈呈

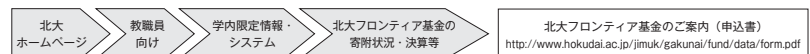


株式会社セコマ 様（平成29年1月31日）

ご寄附のお申し込み方法

①給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

④クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ（<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>）のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

新渡戸フェローゼミ全体発表会を開催

新渡戸カレッジでは、1月7日（土）に高等教育推進機構大講堂において、新渡戸フェローゼミ全体発表会を開催しました。

新渡戸フェローゼミは、新渡戸カレッジのプログラムの一環として平成28年度に新たに開講された科目です。目的は実践的な学びを通して、学生に社会の現実を学問のつながりの中で捉えさせるとともに、リーダーシップ力を育成することです。本学OBのフェローが指導するフェローゼミは新渡戸カレッジ1年次生対象の必修科目で、

最大20名の演習形式の授業です。授業では5名程度のチームを作り、フェローや関係教員とともに現地視察を行い、これに基づき課題を設定し、チームとして解決策について検討しました。

授業の最後に実施した全体発表会では、今年度開講した以下のテーマに基づくゼミにおいて、優秀な8チームによるコンペ形式の発表会を行いました。どのチームのプレゼンテーション内容も魅力的であり、活発な質疑応答が行われました。審査の結果、上位3

チームが選定・表彰され、各チームの代表者にトロフィーが手渡されました。なお、上位3チームは5月13日（土）に実施予定の新渡戸Day for Springでプレゼンテーションを行う予定です。

全体発表会にはゼミにご協力いただいた現地視察先関係者や短期支援員としてゼミを支援した先輩たちも参加し、プログラムへの関心の高さがうかがえました。

（学務部学務企画課）

平成28年度新渡戸フェローゼミテーマ一覧

1. 2026年札幌オリンピック開催に伴う経済と環境の問題（石川裕一フェローゼミ）
2. 酪農・乳業事業への新たなアプローチ（伊藤 慎フェローゼミ）
3. 文化による地域振興・観光促進（大西裕子フェローゼミ）
4. 最新の有料老人ホーム経営から「介護」と「ビジネス」を考える（萱野 聡フェローゼミ）
5. 札幌市インバウンド・ツーリズム（訪日外国人観光）の高度化戦略立案（北村倫夫フェローゼミ）
6. 北海道の製造業に将来を考えるートヨタ自動車北海道株式会社から学ぶ（小林浩治フェローゼミ）
7. サケは海からの贈り物：地球生態系の生物多様性と生態系サービスに果たすサケの役割（重田親司フェローゼミ）
8. 札幌都心交通の課題と解決～レンタル自転車による解決策を事例として～（柴田哲史フェローゼミ）



プレゼンテーションの様子



質疑応答の様子



1～3位の表彰式後の写真撮影

ミャンマーと米国の北海道大学アンバサダーを委嘱



ヤンゴンでの記念撮影
(中央左：キョー・ナイ アンバサダー，中央：ポー・カウン アンバサダー)

12月3日（土）にミャンマーのパテイン大学で開催された「第3回ミャンマー・日本国際シンポジウム」の開会式の場において、ニュン・フェイ パテイン大学長に、12月5日（月）にはヤンゴン市内において、ポー・カウン ヤンゴン大学学長とキョー・ナイ ヤンゴン放送大学副学長に、それぞれ「北海道大学アンバサダー」の委嘱状を手交しました。新たに就任された3名のアンバサダーは、いずれも本学の元留学生であり、これまでもミャン

マーと本学との交流に積極的に取り組んでこれ、ミャンマー国内における本学コミュニティの構築にも意欲を持られています。

また、1月31日（火）には本学総長室において、米国アラスカ州在住の茅野 徹パシフィック・リム・サービス代表取締役社長に、アンバサダーの委嘱を行いました。茅野アンバサダーは、本学水産学部の卒業生で、これまでも本学の研究活動や新渡戸カレッジ生の留学等にご助力いただいております。



パテイン大学での委嘱式



茅野アンバサダー（右）と山口佳三総長

今後も引き続き、北米における本学の教育・研究活動に積極的に協力したいとの力強いお言葉をいただきました。

(国際連携機構)

小学生と外国人留学生の歩くスキー実習を実施

1月15日（日）、札幌市中央区にある中島公園歩くスキーコースにおいて、国際連携機構主催で小学生と外国人留学生の歩くスキー実習を行いました。この行事は、歩くスキーを通じて小学生と留学生の交流を図るもので、公益財団法人中島記念国際交流財団助

成による、平成28年度留学生地域交流事業として採択されたものです。当日参加した留学生はマラウイ、ナイジェリア、グアテマラなど8か国・地域出身の11名で、クロスカントリースキーは初体験でした。また、札幌市立八軒西小学校の6年生10名も同様のこと

で、最初は慎重に歩いていたものの、インストラクターの指導のもとすぐに上達し、いくつかの走法を体験し、最後には2組に分かれてリレーを行い、一生懸命走ってスキー実習を締めくくりました。

その後、中島体育センターにおいて



まず歩いてみましょう



2組でリレー



全員で記念撮影

昼食交流会を行いました。参加した留学生のほとんどが平成28年10月に日本に来た学生で、小学生から卓上に並べられた日本の食べ物を紹介してもらったことをきっかけに会話が弾み、互いの交流を深めていました。

(国際連携機構)



昼食交流会



日本語で挨拶をするGao Pingさん

研究者のためのスキルアップセミナー⑨ 「Sの法則：プレゼンのためのデザイン入門」を開催

1月20日(金)、フロンティア応用科学研究棟において、研究者のためのスキルアップセミナー⑨「Sの法則：プレゼンのためのデザイン入門」を開催しました。

当セミナーは、大学力強化推進本部と創成研究機構が、研究大学強化促進事業の一環として、研究者が成果等を社会に発信する際に必要となるスキルの向上のために、平成25年より実施している「研究者のためのスキルアップセミナー」の第9弾として実施しました。

今回は、特に、パワーポイントなどで作成するプレゼン資料について、レイアウトや色使い、フォントの選び方など、デザインの基礎をほんの少し学

ぶだけで劇的に見やすくなることを学んでもらおうと企画しました。

はじめに、研究戦略室総長補佐の網塚 浩理学研究院教授による開会の挨拶があり、高エネルギー加速器研究機構社会連携部広報室特別技術専門職の大津珠子氏(平成17~27年本学CoSTEP教員)に「Sの法則：プレゼンのためのデザイン入門」と題して、資料作成に大切な「5つのS：Simplicity, Style, Sensitivity, Surprise, Sympathy」についてご講演いただきました。

教職員・大学院生を中心に162名の参加があり、参加者アンケートでは9割が当セミナーに「満足」と回答しました。また、今後のセミナーの課題についての意見も多く寄せられ、研究者

向けスキル向上セミナーへの関心の高さがうかがえました。

今後も当セミナーを定期的・継続的に開催していきます。

(創成研究機構)



会場の様子



挨拶をする網塚教授



大津氏による講演



■ 部局ニュース

北海道大学病院で陽子線治療に関するIAEA技術協力研修を開催

北海道大学病院では、1月16日（月）から19日（木）にかけて、シンガポール共和国環境省の職員4名に対し、陽子線治療に関する防護・管理運営についての研修を開催しました。シンガポールでは現在、シンガポール国立がんセンターへ同国初となる陽子線治療の導入が進められていることから、IAEA（国際原子力機関）から外務省を通じて本院へ依頼があり、この度の研修開催に至りました。

寶金清博病院長、白土博樹陽子線治療センター長からの歓迎挨拶で開講した本研修は、3つのテーマから構成しました。

まず「陽子線治療施設建設に関する日本での法的規制」をテーマに、椎葉芳之氏（北海道保健福祉部）、荒井博史氏（北海道科学大学）、望月健太氏（株式会社日立製作所）、仁井田浩二

氏（一般財団法人高度情報科学技術研究機構）から、放射線障害防止法等の日本における法規制の概要や、本院陽子線治療センター建設時の基準適合、遮蔽計算等について、講義が行われました。

次に「北大病院における陽子線治療」をテーマに、清水伸一副センター長、松浦妙子工学研究院准教授から、本院における陽子線治療システムやその品質管理等について講義が行われ、まとめとして梅垣菊男副センター長による案内のもと、陽子線治療センターの見学を行いました。

続いて「陽子線治療施設での職員・患者・環境の保護」をテーマに、久下裕司医学研究科教授、高尾聖心助教、藤田勝久放射線部技師長、荒井氏、望月氏、根岸公一郎氏（株式会社千代田テクノル）から、内部被ばくの線量評

価や日々の放射線管理、放射性廃棄物の適切な処理等について、映像視聴や本院放射線部の見学も交えた講義が行われました。

最後に、白土センター長を座長として総合討論が行われ、4日間に及んだ本研修は終了しました。

研修受講者からは、「日本における陽子線治療施設に関する法的規制や、陽子線治療の現場の実際、またその考え方を学ぶことができた。シンガポールにおける法的規制の検討に役立てていきたい」との感想が発表される等、有意義な研修であったことがうかがえました。今回の研修が、シンガポールにおける陽子線治療スタートの一助となることを願っています。

（北海道大学病院）



講義の様子



陽子線治療センター（治療室）の見学



活発な質疑応答



研修終了後の記念撮影

経済学部で北海道財務局理財部長の特別講演会を開催

経済学部では、昨年に引き続き、北海道財務局理財部長の米澤裕樹氏による「コーポレートガバナンスと金融監督を巡る最近の動き」と題する特別講演会を、1月18日（水）に文系共同講義棟2番教室において開催しました。

講演者である米澤氏は、金沢大学を卒業後、昭和63年に大蔵省に入省され、平成11年日本貿易振興会（ジェトロ）ミラノ・センター、同14年近畿財務局総務部経済調査課長、同17年東北財務局総務部総務課長、同20年金融庁検査局総務課統括検査官、同25年金融庁監督局銀行第一課銀行監督管理官を歴任され、同27年7月に北海道財務局理財部長に着任されています。

講演では、まず、日本の企業経営の課題に関連して、コーポレートガバナンスと三様監査をめぐる動向についてのお話がありました。企業の経営者とステークホルダーとの間にある情報の非対称性を背景として、監督者による監視の一つの方法として、内部監査、監査役監査及び外部監査からなるいわ

ゆる三様監査の役割について説明されました。特に、昨今の不正会計事例の発生によって会計監査の信頼性が問われている問題に関連して、金融庁の「会計監査の在り方に関する懇談会」によって提言された、会計監査に対する信頼回復策などについて詳しい説明がありました。

また、コーポレートガバナンス強化に向けた政府の取り組みとして、スチュワードシップ・コードとコーポレートガバナンス・コードという2つの指針の策定・運用について解説されました。いわゆる「成長戦略」の一環として設けられたこれらのコードが両輪となって、我が国の企業が収益力を回復するためにどのような形で寄与することが期待されるのかについて紹介されました。さらに、コーポレートガバナンスに対する銀行の関わり方とそれに対する金融当局の監督のあり方や、金融機関の事業性評価といったやや専門的な話題にも言及されました。

いずれも具体的な資料や事例を交え

た講演で、専門的な事項についてもわかりやすく解説され理解が深まるものでした。また、聴衆の多くが学部生であったことから、講演の最後には、学生の将来の可能性についても触れられ、今後どのような職業に就くにしても、コーポレートガバナンスの問題が関係してくることが示されました。

講演全体を通して、学生が日頃学んでいる講義内容と密接に関連した問題が取り上げられたこともあり、生きたデータに基づく臨場感と説得力のあるお話も相まって、学生にとっては考えを整理し問い直す良い機会になったと考えられます。

このような講演会は、学生にとって現実の経済問題に興味をもち、真剣に社会の在り方を考える一助となることから、経済学部では今後も北海道財務局との連携を密にして、開催を続けていきたいと考えています。

（経済学研究科・経済学部）



講演する北海道財務局理財部長の米澤氏



会場の様子

農学研究院で平成28年度第3回FD研修会を開催

農学研究院では、12月20日（火）に農学部W109講義室にて、保健センターの武田弘子カウンセラーを招き、平成28年度第3回FD研修会「学生のメンタルヘルスのために」を開催しました。受講者として教員23名、事務職員1名が参加しました。

冒頭の挨拶では、横田 篤研究院長が、農学研究院における自殺予防に向けた取り組みを紹介し、学生からの異状サインを教職員と保護者の双方で情報共有することの重要性と、教職員・学生のメンタルヘルスに関する知識向

上の必要性について述べました。

今回のFD研修会は、昨年度実施されたメンタルヘルスに関するFD研修の実践編にあたり、武田カウンセラーから日本の大学生と北大生の自殺の現状について説明があった後、相談に訪れた悩みを抱える学生に対する対応の仕方として、悪い対応と良い対応をそれぞれビデオで学びました。引き続き、受講者が3人1組となり、教員役と学生役に分かれ、休みがちな学生に様子を尋ねる場面を想定して、悪い対応と良い対応についてロールプレイが

行われました。状況設定が身近なものであったことから、学生の話に傾聴し、悩みに共感し、安心につながる支援と情報を与え、保健センターなどの医療機関のサポートを勧めるなどの対応方法を学ぶ良い機会になりました。

講師の武田カウンセラー並びにロールプレイをお手伝いいただいたカウンセラーの皆様には深く感謝申し上げます。

（農学院・農学研究院・農学部）



講師の武田カウンセラー



研修の様子



農学院・農学研究院・農学部において「留学生新年会」を開催

農学院第31回「留学生新年会」を、1月6日（金）に農学部大講堂で開催し、5ヶ国（中国、インドネシア、タイ、ベトナム、バングラデシュ）の留学生が各国の名物料理（餃子、チキンイエローカレー、ガバオライス、ティッ

トコーなど）をふるまいました。農学院以外の留学生も多数参加し、参加者数は教職員・日本人学生を含め240名となりました。本年は、中国駐札幌総領事館教育担当である張毅領事も出席され、挨拶の中で張領事は、農学部

OBである原 正市氏のことを紹介されました。原氏は、21年間で63回にわたり中国を訪問し、水稻栽培技術の向上・収量増収を指導し、この卓越した貢献に対し、中国政府から表彰されたということです。



中国人留学生によるダンス



モンゴル人留学生によるダンス

留学生による余興では、中国人学生はモンゴル族のダンス、ミャンマー人学生は民族舞踊、モンゴル人学生は流

行のダンス、インドネシア人学生は母国と日本の歌を披露しました。参加者はこのイベントで、各国の文化の一端

に触れることができました。

(農学院・農学研究院・農学部)



インドネシア人留学生による歌



ミャンマーからの留学生

工学系部局で「第2回こころのケアに関する講習会」を開催

工学研究院、情報科学研究科、量子集積エレクトロニクス研究センターでは、「工学系部局なんでも相談室」による主催行事として、年2回「こころのケアに関する講習会」を開催しています。

1月27日(金)に工学研究院アカデミックラウンジ3において、工学系部局なんでも相談室カウンセラーである石原一人氏(合同会社メンタルアシスト北海道・職業カウンセラー)による

本年度第2回目の「こころのケアに関する講習会」を開催しました。

本講習会では、「ストレスとその対策」と題して、メンタルヘルスとストレスの関係、ストレスとその対応及びストレスコーピングの概論とマインドフルネスなどの方法論について取り上げられ、教職員及び学生合わせて20名が参加しました。

本講習会終了後のアンケートでは、講習会の内容が今後の生活に役立つと

思う、こころのケアへの関心が深まった、ストレスを見つけてコントロールする箇所が大変参考になった旨の感想が多く寄せられました。

工学系部局では、今後も教職員・学生向けに「こころのケアに関する講習会」を開催する予定です。

(工学院・工学研究院・工学部、情報科学研究科、量子集積エレクトロニクス研究センター)



講演する石原カウンセラー



受講風景

■お知らせ

過半数代表候補者の決定

札幌キャンパス事業場（病院を除く。）における過半数代表候補者は、以下のとおり決定しました。

（総務企画部人事課厚生労務室）

職種・系区分		過半数代表候補者		
教 員	文系	（教育学研究院）	浅川和幸	
	理 系	理学研究院	（理学研究院）	渡邊剛
		工学研究院・情報科学研究科	（工学研究院）	高井伸雄
		上記以外の理系	（農学研究院）	東山寛
	医系	（医学研究科）	中澤祐一	
	附置研究所・研究センター系	（触媒科学研究所）	高草木達	
職 員 （ 教 員 を 除 く ）		（研究推進部）	瀧川翼	
		（触媒科学研究所）	山岸太平	
		（国際部）	渡辺明	
特 任 教 員 ・ 契 約 ・ 短 時 間 勤 務 ・ 嘱 託 職 員		（附属図書館）	永山裕子	
		（研究推進部）	村上毅	

■同窓会との交流

恵迪寮同窓会「新年寮歌歌始めの会」



役員、来賓による威勢のいい鏡開き



「都ぞ弥生」斉唱

恵迪寮同窓会の「平成29年新年寮歌歌始めの会」がOBや現寮生、来賓の本学関係者、友誼関係にある小樽商科大学応援団など約110名が参加し、1月29日（日）に札幌市北区のホテルマイステイズ札幌アспенで盛大に開かれました。

内藤春彦北海道支部長の開会の辞、横山 清会長の年頭の挨拶に続き、来賓の本学の西口規彦総長補佐、昨年結成された北海道大学校友会エルの石山 喬会長のご挨拶の後、佐伯 浩前総長ら同窓会役員及び来賓9名による威勢のいい鏡開きで開宴しました。

応援団OBの大谷文昭氏の発声で

「都ぞ弥生」を斉唱した後、昭和30年代参加者による「蒼空高く翔らんと」（昭和2年寮歌）を手始めに、明治から平成までの名寮歌24曲を次々に放歌高吟しました。昭和中期的名寮歌「花繚乱の」（昭和32年寮歌）を作詞・作曲した前島一淑氏も東京から駆けつけ、昭和40年代入寮組と放歌し、青春を楽しんでいました。

応援団の対面式で知られる小樽商科大学応援団のOBと現役学生も約10名参加し、校歌や「若人逍遥の歌」を高唱し、友好を深めました。

平成28年寮歌「此の寮よりの児」を作詞・作曲した小松遼貴さんら現寮生

も登壇し、最新曲や平成の名寮歌を披露したほか、男女8名からなる応援吹奏団が勇ましいトランペットで「都ぞ弥生」を吹奏し、先輩達の喝采を浴びました。

フィナーレは札幌農学校校歌「永遠の幸」と、「都ぞ弥生」を5番まで歌い、最後に全員で肩を組み「別離の歌」を高唱し、参加者一同、2時間余にわたって寮歌への熱き血潮を満喫して散会しました。

（総務企画部広報課）



OBと現寮生の熱唱



豪快な音響で会を盛り上げた応援吹奏団



肩を組み合わせフィナーレ

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成29年1月10日）

- 議案・大学文書館の「国立公文書館等」指定に関する関係規程の整備について
- ・経済学研究院，医学研究院，歯学研究院，獣医学研究院における副研究院長の配置について
- 協議事項・中期目標・中期計画の変更について
- ・学院・研究院制の運営について
- 報告事項・平成29年度予算（予定額）について
-

経営協議会（平成29年1月16日 持ち回りによる書面審議）

- 議題・中期目標・中期計画の変更について
-

教育研究評議会（平成29年1月18日）

- 議題・総長選考会議委員の選出について
- ・経済学研究院，医学研究院，歯学研究院，獣医学研究院の設置について
 - ・中期目標・中期計画の変更について
 - ・学院・研究院制の運営について
 - ・諸規則の一部改正について
- 報告事項・総長補佐の任命について
- ・平成27年度に係る業務の実績に関する評価の結果について
 - ・大学間交流協定の新規締結について
 - ・全学運用教員の中間評価の報告について
 - ・平成28年度産学官連携活動における利益相反マネジメントの実施について
 - ・寄附分野の更新について
 - ・「設備市場」の開設について
 - ・平成29年度予算（予定額）について
 - ・学生の懲戒について
-

役員会（平成29年1月23日）

- 議案・入構車両抑制事業の見直しについて
- ・経済学研究院，医学研究院，歯学研究院，獣医学研究院の設置について
 - ・中期目標・中期計画の変更について
 - ・学院・研究院制の運営について
 - ・諸規則の一部改正について
 - ・構内における撮影について
- 協議事項・発明補償金の取扱いの変更について
- ・就業規則関連規程の一部改正について
 - ・平成29年度機能強化経費（機能強化促進分）の事業別予算額について
-

※規程の制定，改廃については，「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(平成29年2月1日海大達第11号)

本学のオープンファシリティについて、設備の追加を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程

(平成29年2月1日海大達第12号)

保健科学研究所の研究所長付に採用する助教について、大学の教員等の任期に関する法律第4条第1項第1号の規定に基づき任期を定めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス規程の一部を改正する規程

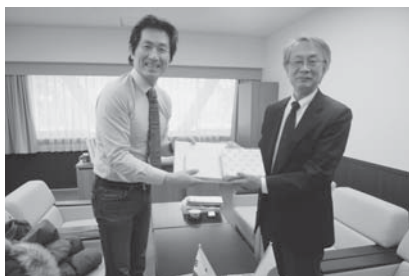
(平成29年2月1日海大達第13号)

本年4月1日付けで、インターナショナルハウスの入居資格を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

■ 表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
29.1.11	東義大学（韓国） Cho, Young-Ho 対外協力処長	両大学の交流に関する懇談
29.1.17	マレーシア・テレンガヌ大学 Mohd Lokman bin Husain 副学長	両大学の交流に関する懇談



東義大学 Cho, Young-Ho 対外協力処長（左側）



マレーシア・テレンガヌ大学
Mohd Lokman bin Husain 副学長（左側）

(国際部国際連携課)

■ 人事

平成29年1月20日付発令

新職名（発令事項）	氏名	旧職名（現職名）
【技術職員等】 （辞職）	田中 真知子	北海道大学病院看護部看護師

平成29年1月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【講師】 (辞職)	李 承 赫	大学院法学研究科講師
【技術職員等】 (辞職)	川 口 麻 弥	北海道大学病院看護部看護師
【嘱託職員】 (辞職)	小 泉 信 隆 西 田 久美子	総務企画部広報課 総合 I R 室

平成29年2月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【部局長・施設長等】 スラブ・ユーラシア研究センター長 (期間：平成31年1月31日まで)	仙 石 学	スラブ・ユーラシア研究センター教授
【教授】 大学院理学研究院教授	稲 津 将	大学院理学研究院准教授
【准教授】 大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター准教授 国際連携研究教育局・北極域研究センター准教授	西 村 裕 一 大 西 富士夫	大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター助教 採用
【助教】 大学院獣医学研究科助教 大学院情報科学研究科助教 大学院情報科学研究科助教	ELEWA YASER HOSNY ALI 樋 浦 諭 志 横 山 想一郎	採用 採用 採用

新任部局長等紹介

平成29年2月1日付

スラブ・ユーラシア研究センター長に



せんごく まなぶ
仙石 学 教授

平成29年1月31日限りで田畑伸一郎
スラブ・ユーラシア研究センター長が
任期満了となり、その後任として仙石
学教授が発令されました。

任期は、平成31年1月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和39年8月18日
昭和62年3月 東京大学教養学部卒業
平成元年3月 東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了
平成6年3月 東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程単位修得退学
平成8年4月 西南学院大学専任講師
平成9年4月 西南学院大学助教授
平成15年10月 西南学院大学教授
平成26年10月 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授

新任教授紹介

平成29年2月1日付

理学研究院教授に



いなつ まさる
稲津 将 氏

地球惑星科学部門
地球惑星ダイナミクス分野

生年月日

昭和52年1月21日

最終学歴

北海道大学大学院地球環境科学研究科博士後期課程修了(平成14年9月)
博士(地球環境科学)(北海道大学)

専門分野

気象学

訃報

准教授 福嶋 正巳 氏
(享年53歳)



准教授 福嶋正巳先生が、平成28年12月11日に逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、昭和38年茨城県水戸市に生まれ、土浦第一高等学校を卒業後、北海道大学水産学部に入學、卒業後は、同大学大学院理学研究科化学専攻修士課程、博士後期課程に進学され、同大学より博士(理学)の学位を授与されました。

学位取得後、財団法人エネルギー総

合工学研究所研究員、工業技術院資源環境技術総合研究所主任研究官、独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員を経て、平成18年4月から北海道大学大学院工学研究科助教授(その後、改組により大学院工学研究院准教授)として活躍されてきました。

先生のご専門は、腐植物質を中心とした環境化学、触媒化学、分析化学であり、「バイオミメティック触媒と腐植物質のグリーンケミストリーへの展開」を研究室のテーマに掲げ、植物が腐ってできる腐植を使って人類が直面する諸問題の解決に精力的に取り組まれてきました。また、各種学協会活動等にも積極的に関わり、日本腐植物質学会副会長、日本分析化学会北海道支部副支部長を務められるとともに、腐植物質についての国際誌「Humic Substances」の編集委員長も務められました。腐植の研究においては間違いなく本邦における第一人者であり、世

界的に有名な研究者でもありました。

教育面では、全学教育科目、専門科目等を担当され、常に情熱をもって教壇に立たれていました。また、研究指導面では、いつも白衣を着て学生と一緒に実験を行い、学生に寄り添って化学の基礎を叩き込んでおられました。学生が素晴らしい研究成果を出した後に見せる先生の嬉しそうな顔を忘れることができません。道半ばでの先生の逝去は、先生のご専門分野に限らず、本学にとっても大きな損失であり、誠に残念でなりません。

このように、先生は資源環境化学の分野における教育研究活動に尽力されるとともに、特に腐植物質の研究の進展に多大な貢献をされました。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(工学院・工学研究院・工学部)

名誉教授 篠原 邦夫 氏
(享年74歳)



名誉教授 篠原邦夫先生が平成28年12月25日に逝去されました。先生は、昭和40年3月北海道大学工学部合成化学工学科を卒業後すぐに、同学科工業化学計測講座助手に着任されました。その後、昭和46年1月ロンドン大学(イギリス)においてMaster of Scienceを、同48年12月に北海道大学において工学博士を取得され、同63年1月北海

道大学工学部合成化学工学科工業化学計測講座助教授、そして平成4年4月教授に昇任されました。工業化学計測講座は、平成6年に改組に伴って材料プロセス工学講座となりましたが、先生は同18年3月に停年退官されるまで同講座を担当されました。

先生は微粒子工学をご専門とし、中でも粉粒体の調製、反応装置、圧密操作による素材調製・環境浄化プロセスへの応用について精力的に研究を行われました。これらの研究成果は高く評価され、平成13年には、「粉体素材調製プロセス開発のための微粒子工学」についての研究に対し、財団法人ホソカワ粉体工学振興財団よりKONA賞を授与されました。

退官後も、微粒子化学工学研究所を立ち上げるなど、精力的に研究活動を

続けられました。また、ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)客員教授(平成19~23年)、マッセー大学(ニュージーランド)客員教員(平成21, 22年)、チュラロンコン大学(タイ)客員教授・招聘研究者(平成23, 24, 26年)、スラナリー工科大学(タイ)客員教授・研究者(平成23~25年)、ニューカッスル大学(イギリス)客員教員(平成24年)、ウェスタンシドニー大学(オーストラリア)客員教授(平成25, 27年)を歴任されるなど、研究を通じた国際交流にも大きく貢献されました。

先生の長年にわたるご貢献に改めて感謝し、ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(工学院・工学研究院・工学部)

編集メモ

●立春が過ぎ、少しずつ日が長くなっていると感じられるようになりましたが、冬の寒さや雪景色はまだ続きそうです。

今月は、さっぽろ雪まつりと冬季アジア札幌大会が開催され、海外から多くの方が訪れていました。

●25日(土)には一般入試(前期日程)が行われました。前日には、会場の下見のために多くの受験生らが訪れ、北大生が受験生を励ましたり、道案内や寮の紹介などをしていました。



2016.2.13 釧網本線 細岡～塘路（標茶町）

北の鉄道風景 47 釧路湿原

日本最大の湿原として広く知られている釧路湿原。現在よりも温暖な気候であった6,000年ほど前は、海水面の上昇によって、この湿原一帯は浅くて広大な海であったという。その後、気候の冷涼化に伴う海水面の低下を経て、約3,000年前に現在のような姿になったのだそうだ。この湿原の周囲には、茅沼温泉などのようなナトリウム-塩化物温泉が点在しているが、それもこの一帯が遠い過去に海であったこと

に由来しているのだろうか。写真は釧路湿原を縦断する釧網本線を釧路行き始発列車が往く光景である。道内随一の好景観路線として高名な釧網本線であるが、JR北海道による単独維持が困難な路線の一つとされており、存続の岐路に立たされている。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ② No.755 平成29年2月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html